

令和8年度山梨県立山梨高等学校

学校運営協議会設置通知書交付式・学校運営協議会委員委嘱状交付式

および第1回学校運営協議会

- 1 日 時 令和8年6月17日(水) 14:30～
- 2 場 所 山梨高等学校 梨窓ホール
- 3 学校運営協議会設置通知書交付式・学校運営協議会委員委嘱状交付式
(司会：学校運営協議会 担当指導主事)
 - (1) 開式の言葉 (司会)
 - (2) 山梨県教育委員会あいさつ
 - ① 山梨県教育委員会職員紹介
 - ② 学校運営協議会設置通知書交付
 - ③ 学校運営協議会委員委嘱状交付
 - (3) 閉式の言葉 (司会)
- 4 第1回学校運営協議会 (司会：全日制教頭)
 - (1) 開会のことば (司会)
 - (2) 校長あいさつ
 - (3) 学校運営協議会委員および本校職員自己紹介
 - (4) 学校運営協議会の運営等に関する要綱について
 - (5) 学校運営協議会会長及び副会長選出
 - (6) 会長・副会長あいさつ
 - (7) 協議 (議長：会長)
 - ① 令和8年度学校運営基本方針について (校長)
 - ② 学校評価報告書について (全日制教頭・定時制教頭)
 - ③ いじめ防止基本方針について (校長)
 - ④ その他
 - (8) 本校の現状について (司会)
 - ① 全日制 (全日制教頭・教務部長・進路支援部長・生徒支援部長)
 - ② 定時制 (定時制教頭)
 - (9) 職場環境づくりマネジメントプランについて (校長)
 - (10) 意見交換

(11) 連絡・報告事項 (司会)

① 今後の学校運営協議会の予定

第2回学校運営協議会：令和8年10月20日（火）15：40

※ 会議の前に、授業見学（14：30）

第3回学校運営協議会：令和9年2月18日（木）15：30

② その他

(12) 閉会のことば (司会)

※ 終了後、拡大いじめ対策委員会を行います。

《配付資料》

- ・委員の委嘱・任命について（写）
- ・本冊子
- ・学校要覧
- ・学校案内パンフレット（全・定）
- ・生徒会誌（全）
- ・第2回学校運営協議会出席依頼文書
- ・梨窓祭開催について

令和8年度 学校運営協議会委員

学校運営協議会委員氏名	役 職 等
武 井 博 様	地元自治会 代表
土 屋 芳 子 様	本校同窓会 副会長
矢 崎 貴 恵 様	山梨市役所政策秘書課 教育民生統括監
小 野 洋 様	山梨高校を育てる会 元会長
古 川 浩 二 様	山梨高校を育てる会 元会長
三 井 保 様	笛川学園 校長
飯 島 裕 明 様	加納岩小学校 校長
大 沢 圭 子 様	つつじ幼稚園 園長
齋 藤 貴 之 様	本校 P T A会長
藤 卷 理 恵	本校 校長

令和8年度 学校運営協議会座席表

場所 梨窓ホール

出入口

※小野 洋様は、欠席連絡をいただいております。

学校運営協議会委員

齋藤 貴之 様

学校運営協議会委員

大沢 圭子 様

学校運営協議会委員

飯島 裕明 様

学校運営協議会委員

三井 保 様

学校運営協議会委員

古川 浩二 様

学校運営協議会委員

矢崎 貴恵 様

学校運営協議会委員

土屋 芳子 様

学校運営協議会委員

武井 博 様

進路支援部長

京ヶ島 由美子

生徒支援部長

関口 直人

教務部長

清水 壽仁

事務長

北村 英丈

定時制教頭

松田 頼樹

全日制教頭

早川 典孝

校長・学校運営協議会委員

藤巻 理恵

山梨県教育委員会

古川 順子 様

山梨県教育委員会

中島 利秀 様

交付式終了後、学校運営協議会の際は、議長および会長席とする。

山梨高等学校 学校運営協議会の運営等に関する要綱（案）

（趣旨）

第1条 この要綱は、「山梨県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」及び「山梨県立学校における学校運営協議会の運営等に関する要綱」に基づき、山梨県立山梨高等学校（以下「山梨高等学校」という。）に設置する学校運営協議会（以下「協議会」という。）について、必要な事項を定めるものとする。

（協議会の設置）

第2条 山梨県教育委員会（以下「教育委員会」という。）は、山梨高等学校に協議会を置く。

2 前項の協議会は、教育委員会及び校長の権限と責任の下、保護者及び地域住民等の学校運営への参画や、保護者及び地域住民等による学校運営への支援・協力を促進することにより、学校と保護者及び地域住民等との間の信頼関係を深め、学校運営の改善や生徒の健全育成に取り組むものとする。

（基本的な方針の承認）

第3条 校長は、次の各号に掲げる事項について、毎年度基本的な方針を作成し、協議会の承認を得るものとする。

（1）教育目標及び学校経営計画に関すること。

（2）教育課程の編成に関すること。

（3）その他校長が必要と認めること。

2 校長は、前項の規定により承認された基本的な方針に従って学校運営を行うものとする。ただし、承認が得られない特別な事情がある場合は、校長は承認を得ずに学校運営を行うことができる。

3 前項でいう特別な事情とは、次に掲げる事項とする。

（1）協議会の委員（以下「委員」という。）同士の意見が対立して協議会として合意形成が行えない場合。

（2）協議会としての活動の実態が認められない場合。

（3）校長と協議会の方針が対立し、学校の円滑な運営に著しい支障を生じるおそれがあると認める場合。

（4）一部又は全部の委員による偏った運営がなされていると認められる場合。

（5）その他学校運営協議会の運営が適正を欠いていると認められる場合。

（6）やむを得ない理由により協議会の開催ができない場合。

（意見の申し出）

第4条 協議会は、前条第1項各号に掲げる事項のほか、山梨高等学校の運営全般について校長又は校長を経由して教育委員会に対して、意見を述べることができる。

2 協議会は、山梨高等学校の職員の任用に関して次に定める事項について、校長を経由して教育委員会に対して意見を述べるることができる。ただし、特定の個人に関すること

を除くものとする。

- (1) 学校運営の基本方針の実現に資する建設的な意見
- (2) 学校の教育上の課題を踏まえた一般的な意見。

(学校運営等に関する評価)

第5条 協議会は、毎年度1回以上、山梨高等学校の運営状況等について評価を行うものとする。

(委員の委嘱)

第6条 委員は15名以内とし、次の各号に掲げる者のうちから校長の推薦により教育委員会が委嘱又は任命（以下「委嘱」と総称する。）する。ただし、次の第1号から第3号に掲げる者は、必ず協議会の委員に含めるものとする。

- (1) 山梨高等学校の所在する地域の住民
 - (2) 山梨高等学校に在籍する生徒等の保護者
 - (3) 山梨高等学校の運営に資する活動を行う者
 - (4) 山梨高等学校の校長
 - (5) 山梨高等学校の教職員
 - (6) 学識経験者
 - (7) 関係行政機関の職員
 - (8) 山梨高等学校の所在する地域の産業界等の代表者
 - (9) その他教育委員会が適当と認める者
- 2 委員の辞職等により欠員が生じた場合には、教育委員会は速やかに新たな委員の委嘱を行うものとする。
- 3 委員は、特別職の地方公務員の身分を有する。
- 4 委員以外の者も、協議会の求めに応じて意見を述べることができる。

(守秘義務等)

第7条 委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も同様とする。

- 2 前項のほか、委員は、次の各号に掲げる行為をしてはならない。
- (1) 委員たるにふさわしくない非行を行うこと。
 - (2) 委員としての地位を営利行為、政治活動、宗教活動等に不当に利用すること。
 - (3) その他、協議会及び山梨高等学校の運営に著しく支障をきたす言動を行うこと。

(任期)

第8条 委員の任期は、委嘱の日から当該委嘱の日が属する年度の末日までとする。ただし、委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の在任期間とする。

- 2 委員の再任は、妨げない。

(会長及び副会長)

第9条 協議会に会長及び副会長を置き、委員の互選により、選出する。ただし、校長及び教職員は会長及び副会長の職に就くことはできない。

- 2 会長が会議を招集し、議事を掌る。ただし、原則として会長が会議の議長となる。
- 3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は欠けたときは、その職務を行うものとする。

(議事)

第10条 協議会は、会長が、校長と協議の上、開催日前に議案を示して招集する。ただし、緊急を要する場合には、この限りでない。

- 2 協議会は、委員の過半数の出席がなければ会議を開くことができない。
- 3 協議会の会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。
- 4 議事について利害関係を有する委員は、当該議事に参与することができない。
- 5 会長は、議事について会議録を作成し、保管しなければならない。

(部会)

第11条 協議会は、協議会の円滑な運営を図るとともに、具体的な事項を検討するため、協議会に部会を置くことができる。

- 2 部会で検討した事項は、協議会に報告する。
- 3 部会の運営その他部会に関し必要な事項は、別に定める。

(協議会の会議の公開)

第12条 協議会の会議は、次に掲げる場合を除き公開する。

- (1) 山梨高等学校の職員の採用その他の任用に関する事項について協議するとき。
- (2) その他特別の事情により協議会が必要と認めたとき。
- 2 協議会の会議を傍聴しようとする者は、あらかじめ会長に申し出なければならない。
- 3 傍聴人は、会議の進行を妨げる行為をしてはならない。
- 4 協議会は、協議会の会議の全部又は一部を非公開とすることを決定した場合は、その理由を明らかにしなければならない。

(協議会の会議の周知)

第13条 会長は、協議会の会議の開催日について、学校のホームページ等の適切な方法により県民に対する周知に努める。ただし、協議会の会議を緊急に開催する必要性が生じたとき等やむを得ない場合はこの限りでない。

(協議結果等の公表)

第14条 会長は、協議会の会議の公開、非公開にかかわらず、協議会の会議の終了後、議事録を作成するとともに、協議会の会議の議題及び議事の進行状況が分かる会議の概要を学校のホームページ等に掲載するよう努めるものとする。

2 協議会の会議資料及び議事録等の公開に当たっては、山梨県情報公開条例第8条各号に該当する事項の取扱いに十分留意する。また、委員の個人情報（氏名、職業、地位、会議の出欠、会長等の別等）を公開する場合は、方法及び内容について、事前に本人の了承を得る。

（委員の解嘱）

第15条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する場合は、委員を解嘱又は解任（以下「解嘱」と総称する。）することができる。

- （1）本人から辞任の申出があったとき。
- （2）第7条の規定に違反したとき。
- （3）心身の故障のため職務を遂行することができないとき。
- （4）その他解嘱に相当する事由が認められるとき。

2 校長は、委員が前項各号のいずれかに該当すると認められる場合は、直ちに教育委員会に報告しなければならない。

3 教育委員会は、委員を解嘱する場合には、その理由を示すとともに、当該委員から意見陳述の機会を与えることを求められたときは、これを認めなければならない。

（委任）

第16条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営やその他協議会に関し必要な事項は、協議会が別に定める。

附則

この要綱は、令和8年4月1日から施行する。

校 訓

至誠無息

(至誠息むことなし)

この言葉は、『中庸』の中に見える言葉で、第3代校長、小畑善吉先生によって、昭和11年4月、校訓として制定されたものです。

「至誠」とはこのうえもない誠実さ、真心を指します。そして、「息」は静かな息づかい（休んでいる状態）を意味します。つまり、「至誠無息」とは「常に誠実であることを目指して自分を磨く」という、人として在るべき姿を示しています。誠実に努めた先には、他者からの信頼があり、そこに生きることの尊さが生まれます。

この校訓を、学習や部活動、そしてあらゆる生活の中での心得として、常に目標や理想を高く掲げ、真摯に生きることを強く求めます。

令和8年度 山梨高校の教育目標と重点的な取組

I 学びの本質に迫り、自ら考え、判断し、表現できる生徒を育てます。

- 1 「主体的・対話的で深い学び」への授業改善の推進
- 2 学習意欲を高め、学習習慣の確立につながる学習評価の改善
- 3 自己の在り方生き方を追究し、キャリア形成を図る探究的な学習活動の充実

II 誇りと気概を持ち、自他を敬愛する豊かな心を持つ生徒を育てます。

- 1 学校図書館等の積極的な利活用による読書活動の充実
- 2 自己肯定感を育む多様な体験活動・ボランティア活動の推進
- 3 意欲的に社会参画する力を醸成する主権者教育の推進

III 生命や人権を尊重し、心身共にたくましい生徒を育てます。

- 1 健康で活力ある生活を送る土台となる基本的な生活習慣の確立
- 2 他者と協働してより良いものを創り上げる生徒会活動・部活動の推進
- 3 命を守る「自助・共助」の行動につなげる安全・防災教育の推進

IV 地域や保護者に信頼される学校づくりを目指します。

- 1 ホームページやBLEND、各種「便り」等による積極的な情報提供
- 2 学校説明会や学校訪問等による地元中学校への積極的な広報活動
- 3 学校評価の適切な実施と公開による教育活動の改善と一層の充実



R8山梨高校スクールミッション・ポリシー

【スクール・ミッション】

峡東地域の伝統ある普通科高校として、幅広い知識と教養を身に付け、自ら課題を発見して他者と協働しながら解決し、新たな価値を創造していく「生きる力」を育成し、地域との連携を図り、持続可能な地域社会づくりに貢献する学校を目指します。

【グラデュエーション・ポリシー】（育成を目指す資質・能力に関する方針）

- 1 学びの本質に迫り、自ら考え、判断し、表現できる生徒を育成します。
- 2 誇りと気概を持ち、自他を敬愛する豊かな心を持つ生徒を育成します。
- 3 生命や人権を尊重し、心身共にたくましい生徒を育成します。
- 4 主権者として意欲的に社会参画していく生徒を育成します。
- 5 英理総合コースでは、国際社会や様々な分野で活躍できるリーダーを育成します。

【カリキュラム・ポリシー】（教育課程の編成及び実施に関する方針）

- 1 基礎・基本の定着の徹底と活用を図り、確実な学力向上を図ります。
- 2 多岐にわたる生徒の進路希望実現にむけて、コースや多様な学校設定科目を設ける等、生徒一人一人に寄り添ったきめ細かな指導を行います。
- 3 「総合的な探究の時間」と各教科・科目が連携して、SDGsを主軸とする充実した探究活動を行います。
- 4 2年生全員が、地域や企業と連携したインターンシップに参加し、社会的・職業的自立について追究します。
- 5 英理総合コースでは、各種語学研修や多彩なサイエンス・ラボ、数多くの先端技術・研究の見学や講演会等、豊富な体験活動を行います。

【アドミッション・ポリシー】（入学者の受け入れに関する方針）

- 1 本校の教育方針を理解し、本校への志望理由が明確である生徒
- 2 基本的な生活習慣を確立し、学業と部活動及びボランティア活動に積極的に取り組む意欲のある生徒
- 3 主体的に社会参画し、地域に貢献していこうとする強い意志を持っている生徒

様式1 令和7年度 山梨県立山梨高等学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	校訓「至誠無息」をあらゆる生活の中での心得として、常に目標や理想を高く掲げ、真摯に生きる生徒の育成
-----------	---

山梨県立山梨高等学校校長 藤巻 理恵

本年度の重点目標	I 学びの本質に迫り、自ら考え、判断し、表現できる生徒の育成
	II 誇りと気概を持ち、自他を敬愛する豊かな心を持つ生徒の育成
	III 生命や人権を尊重し、心身ともにたくましい生徒の育成
	IV 地域や保護者に信頼される学校づくり

達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	B 概ね達成できた。(6割以上)
	C 不十分である。(4割以上)
	D 達成できなかった。(4割以下)

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自己評価			年度末評価(2月1日現在)			
番号	評価項目	本年度の重点目標 具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	自ら考え、判断し、表現できる生徒の育成を目指す、個別最適な学びと協働的な学びの充実	①ICTの活用等による個に応じた指導の充実	学校評価アンケート、授業アンケート	ICT機器を活用した指導の充実に向けて、総合教育センターから講師を招き、職員研修会を実施した。また、全職員がe-ラーニングを活用して研修も実施した。	A	ICT支援員を活用して、授業等でのICTの活用方法や指導に役立つ新たなツールの情報提供、研修会の実施などの取り組みを積極的にを行い、個別最適な学習の充実を図る。
		②学習意欲を高め、予習、授業、復習を軸とした学習習慣の確立につながる学習評価の実践	学校評価アンケート、授業アンケート、定期試験	・昨年度・今年度と観点別評価の実施において新たな運用方法で実施し、より生徒の学習実態が評価によりよく反映されるようになり、学校評価アンケートの結果も改善されてきた。		・今年度実施の新しい観点別評価の運用方法について、年度末での検証をしっかりと行い、評価精度と学習効果の向上に繋げていく。
		③生徒同士や多様な他者との協働による、より良い学びの生成のための探究的な学習活動の充実	TS事後アンケート、ポートフォリオ作成状況	・校外学習や「総合的な探究の時間」などを通して、生徒同士や外部の方と探究的な活動を実施することができ、学びを深めることができた。		・外部との交流活動をさらに促進し、協働的、探究的な学習活動を充実させる。
2	誇りと気概を持ち、多様化する価値観を受け入れながら自他を敬愛する豊かな心を持つ生徒の育成	①朝読書や学校図書館等の積極的な利活用による読書活動の充実	学校評価アンケート、図書館利用・貸出状況の調査	・図書館利用者数も年々増加しており、朝読書についても、学校評価アンケートでも8割を超える生徒が朝読書に積極的に取り組んでいるとの結果を得ており、読書活動の活性化に少しずつ繋がっていった。	B	・学校図書館の利用をさらに促す取り組みについて検討していくとともに、読書の効果についても今後検証していく必要を感じた。
		②自己有用感・自己効力感を育む多様な体験活動の推進	ボランティア活動状況及びTS事後アンケート	・ボランティアの依頼も増えており、生徒への情報発信も適宜行っており、それに伴いボランティア活動参加者も増加傾向にある。		・様々な活動への参加がどのくらい自己有用感に繋がっているのかの検証は必要である。
		③主権者として意欲的に社会参画する力を醸成するためのクロスカリキュラムの推進	学校評価アンケート、授業アンケート	・授業の中で主権者教育を行ってはいるが、組織的な取り組みを推進することができなかった。		・主権者教育は、公民科だけでなく、教科横断的で組織的な取り組みを検討していく必要がある。
3	生命や人権を尊重し、心身共にたくましい生徒の育成	①感染症対策も踏まえた、健康で活力ある生活を送る土台となる基本的な生活習慣の確立	学校評価アンケート	・食事や睡眠などを意識した健康的な生活習慣作りの呼びかけや、手洗い、うがい等の予防対策の周知及びインフルエンザなどの感染症の発生状況の把握に努めた。生徒の学校評価アンケートで「健康的な生活を意識している」割合が昨年度よりも多い85%となった。	A	・健康的な生活習慣のさらなる向上に向け、家庭と協力・連携を意識した取り組みも考えていきたい。
		②他者と協働してより良いものを創り上げる生徒会活動・部活動の推進	学校評価アンケート、生徒会誌による活動状況の検証	・生徒会を中心に昨年度からスタートした地域との交流活動度について、今年度は交流先も増え、地域からのニーズも高まっている。		・課題として、職員数が年々削減されていく中、新しい取り組みを増やしていくことの難しさを感じている。
		③命を守る「自助・共助」の行動につながる安全・防災教育の推進	学校評価アンケート、行事の検証	・定期的に避難訓練等の防災教育を実施し、命を守る行動についての意識向上に努めた。防災等の安全教育に関する学校評価アンケートの結果も昨年度よりも向上した。		・今後は、高校生も地域社会の一員であるという意識作りと「共助」の精神を養う取り組みが必要であると感じる。
4	地域や保護者に信頼される学校づくりの推進	①ホームページ等を利用した定期的な情報発信や学校訪問等による広報活動の充実	学校評価アンケート、広報物の検証、オフィスツールへの参加状況	・ほぼ毎日更新する学校ホームページや、広報誌等により、学校外部への情報発信に努め、学校評価アンケートでも高い評価を得ている。	B	・保護者や地域の方々への情報発信手段として、他の方法についても検討していく。
		②地域の行事やボランティア活動への積極的な参加	ボランティア活動状況、学校評価アンケート	・地域社会からの依頼も増加傾向にあり、それに伴い参加する生徒も増えている。		・地域との関わりは生徒の成長にも大切な要素であり、山梨高校を必要としていただけなのはありがたいが過剰になることへの心配もある。
		③教員の働き方改革の取組として、外部人材の活用による校務の精選・効率化	外部人材活用実績、学校評価アンケート	・部活動において地域の専門家やOB等の外部指導者の活用を進めている。		・週休日の業務削減を少しずつ進めていく。

学校関係者評価	
実施日(令和8年2月17日)	
評価	意見・要望等
4	・生徒が満足し、安心して学ぶ取り組みをつけて下さい。 ・わかりやすい授業をしてほしい。明るく楽しく。 ・ICT活用は今では重要な方法と理解している。情報が容易に手に入るがフェイクニュース等も多いと聞くので見極める力を持つ事と、SNSによる倫理観も併せて学んで欲しいと思う。 ・生徒の回答で学習の意欲を高めるための授業の評価が他項目より低くなっていた。どのような点が改善に必要か具体的につかめると良いのではないかと。 ・e-ラーニングでの研修について、内容を見ていないため私のイメージになるが、資料からの一方的な内容となる感があるので教員間で内容の確認をしてみた方が良いのではと思う。 ・前回、授業見学をさせていただき、ICTを積極的に活用し、生徒が生き生きと授業に取り組んでいた。
4	・ボランティアの依頼だけに応じるのではなく、生徒たちが主体的に課題を見つけ、それを解決するためにどんなことが必要かを考え、行動につなげることで自己有用感を高められると思います。 ・本を読む事は素晴らしい。知識は本から。図書館の利用者をもっと多く。 ・ボランティア活動への積極参加は良いと思います。 ・多様な価値観を理解するためには物事を多方向から見る事の大切さを学んでほしい。ろう学校との交流はこのようにに対して良い機会と考えられる。この項目3、4にも通じるので、交流の機会を増やせると良いと考える。 ・書店が減少している今日、図書館利用数が増加し、朝読書も充実している様子がうかがえた。
4	・様々な社会問題に目を向け、自分自身を大切にできる生徒の育成を期待します。 ・定期的な防災教育は素晴らしい事だと思います。 ・インフルエンザや新型コロナウイルスなどの感染症の流行もあり、関心が高いと思う。 ・地域防災については、自分に「何が出来る」という事を考えてみて欲しい。 ・健康は全ての基となるので、引き続き力を入れて進めていきたい。 ・職員数の削減への対応は、難しいことも多いと思うが、PTA・保護者・地元との協力体制を作り、対応できればと思う。 ・コロナやインフルエンザ等感染症流行の中で健康管理意識の向上を図り、適切に対応している。
3	・中高連携の取り組みがあるといいなと思っています。 ・地域の行事に参加していただきありがたい。長く続けてほしい。 ・地域との関わりを持ち、地元から応援される高校を目指してほしい。 ・梨窓祭などが、学内だけの行事になってしまっているの、地域との交流ができる様な方策はないだろうか。 ・ホームページが充実しており、同窓会の研修会等も掲載させていただき、感謝しています。

様式1 令和8年度 山梨県立山梨高等学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針 校訓「至誠無息」をあらゆる生活の中での心得として、常に目標や理想を高く掲げ、真摯に生きる生徒の育成

山梨県立山梨高等学校校長 藤巻 理恵

本年度の重点目標	I 学びの本質に迫り、自ら考え、判断し、表現できる生徒の育成
	II 誇りと気概を持ち、自他を敬愛する豊かな心を持つ生徒の育成
	III 生命や人権を尊重し、心身ともにたくましい生徒の育成
	IV 地域や保護者に信頼される学校づくり

達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	B 概ね達成できた。(6割以上)
	C 不十分である。(4割以上)
	D 達成できなかった。(4割以下)

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自 己 評 価				年度末評価(〇月〇日現在)		
番号	評価項目	本年度の重点目標 具体的方策	方策の評価指標	年度末評価(〇月〇日現在)		
				自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	自ら考え、判断し、表現できる生徒の育成を目指す、個別最適な学びと協働的な学びの充実	①ICTの活用等による個に応じた指導の充実	学校評価アンケート、授業アンケート			
		②学習意欲を高め、予習、授業、復習を軸とした学習習慣の確立につながる学習評価の実践	学校評価アンケート、授業アンケート、定期試験			
		③生徒同士や多様な他者との協働による、より良い学びの生成のための探究的な学習活動の充実	TS事後アンケート、ポートフォリオ作成状況			
2	誇りと気概を持ち、多様化する価値観を受け入れながら自他を敬愛する豊かな心を持つ生徒の育成	①朝読書や学校図書館等の積極的な活用による読書活動の充実	学校評価アンケート、図書館利用・貸出状況の調査			
		②自己有用感・自己効力感を育む多様な体験活動の推進	ボランティア活動状況及びTS事後アンケート			
		③主権者として意欲的に社会参画する力を醸成するためのクロスカリキュラムの推進	学校評価アンケート、授業アンケート			
3	生命や人権を尊重し、心身共にたくましい生徒の育成	①感染症対策も踏まえた、健康で活力ある生活を送る土台となる基本的生活習慣の確立	学校評価アンケート			
		②他者と協働してより良いものを創り上げる生徒会活動・部活動の推進	学校評価アンケート、生徒会誌による活動状況の検証			
		③命を守る「自助・共助」の行動につなげる安全・防災教育の推進	学校評価アンケート、行事の検証			
4	地域や保護者に信頼される学校づくりの推進	①ホームページ等を利用した定期的な情報発信や学校訪問等による広報活動の充実	学校評価アンケート、広報物の検証、オープンクールへの参加状況			
		②学校運営協議会と連携し、地域の行事やボランティア活動への積極的な参加の推進	ボランティア活動状況、学校評価アンケート			
		③教員の働き方改革の取組として、外部人材の活用による校務の精選・効率化	外部人材活用実績、学校評価アンケート			

学校関係者評価	
実施日(令和〇年〇月〇日)	
評価	意見・要望等

様式1 令和7年度 山梨県立山梨高等学校定時制評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針 校訓「至誠無息」をあらゆる生活の中での心得として、常に目標や理想を高く掲げ、真摯に生きる生徒の育成

山梨県立山梨高等学校校長 藤巻 理恵

本年度の重点目標	1 基礎的・基本的学力の定着を図り、自ら学ぶ意欲を持つ生徒の育成
	2 自他を敬愛する豊かな心と、協働して物事に対応できる社会性を持つ生徒の育成
	3 学業と仕事を両立させることのできる、心身ともにたくましい生徒の育成
	4 地域や勤務先、保護者に信頼される学校づくり

達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	B 概ね達成できた。(6割以上)
	C 不十分である。(4割以上)
	D 達成できなかった。(4割以下)

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自己評価				学校関係者評価		
本年度の重点目標				年度末評価(1月30日現在)		
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	学習意欲を高め、学習習慣の確立につながる授業改善の推進	①ICTの利活用をとおして、予習・復習を習慣化し理解を促す授業の展開	生徒の学習課題提出状況 生徒アンケート	生徒が積極的に授業に参加できるよう、スモールステップでの達成感を実感させたり、ICT活用によりわかりやすい授業展開を実施した。生徒は、学び直しを含めた学習をとおしてクラスの仲間と学ぶ楽しさを実感している。その感覚を生かして、生徒の学力向上の実感につながれるとよい。	B	チームティーチングやパート分け授業は、生徒一人一人に目の行き届く学習環境である。生徒が、主体的に学習できる場面では、見守る姿勢を取りながら学習活動が活発になるよう指導していきたい。
		②授業改善につなげるための教員の研修機会の充実と学習評価の実践	授業アンケート 定期試験・教員研修			
		③国語・数学・英語で実施している少人数授業やチームティーチングの成果の検証	授業アンケート 生徒アンケート			
2	自他を敬愛する豊かな心を育む多様な体験活動の推進	①コミュニケーション力や自己肯定感を育むための生徒会行事等の企画運営	生徒アンケート 教員アンケート	全校で行う学校行事や体験授業をとおして、人間関係の広がる場面を作っている。外部講師の定時制課程への理解もあり、継続して体験活動を実施できている。入学後の人間関係の構築には、人間関係づくりが丁寧に進むよう、時間をかけて支援している。	A	県・市の各課と継続して外部講師依頼を行うことで、こちらの要望を生かした講師や講演内容で実施している。地域連携等、全校で参加できる機会を増やせるか検討する。いじめ根絶への対応には高い評価をいただいた。引き続き、生徒の様子を注意して対応していく。
		②いじめアンケートの定期的な実施と、日ごろからの細やかな観察と指導によるいじめ根絶への対応	いじめアンケート			
		③教員の働き方改革につながる、地域連携と外部人材の積極的な活用	教員アンケート 外部人材活用実績			
3	基本的な生活習慣の確立と、自己の在り方生き方を追究したキャリア観の育成	①学業と仕事の両立に向けた就業把握と、遅刻・欠席等への積極的な指導	三者懇談 生徒アンケート	高校入学前に不登校傾向の生徒も多く、学校が心理的安全性の高い場所となるよう取り組んだ。特に非常勤養護講師の存在は生徒にとっても頼りになる存在である。職員は保護者との連絡を丁寧に、家庭に寄り添った指導を継続している。進路指導では生徒の進路決定まで、個に対応した指導を心掛けた。	A	アルバイトに挑戦しようという生徒が長期継続ができるよう、コミュニケーション力や課題解決能力の育成を重点的に実施したい。卒業時の進路を見据えた就職・進学試験へむけて、3年卒業対応、免許等取得の準備についても保護者と連携し、早めの対応を行う。
		②進路実現に向けた進路講話や個人面談、各種説明会など進路希望に沿った柔軟な情報提供	保護者アンケート 進路情報の提供			
		③卒業時を見越した、進学・就職希望者に対する作文・面接指導の実施	作文・面接指導の実績 生徒・保護者アンケート			
4	ホームページや学校通信等による積極的な情報提供	①HPやBLENDを活用した学校通信、保健だよりの発信と生徒参加の機会を設けた情報発信	生徒・保護者アンケート	ホームページでは即時、定時制通信と保健だよりは定期的に発行し、それぞれの媒体の持ち味を生かしている。端末を持っていない保護者には紙媒体で配付し、情報が行き届くよう配慮している。	B	情報発信の手段が様々ある中で、効果的な発信の仕方を考えることも必要かと思われる。
		②保護者の来校機会を増やすための公開授業や公開行事等の実施	保護者アンケート			

学校関係者評価	
実施日(令和8年2月17日)	
評価	意見・要望等
3	・学力格差にの大きい生徒にチームティーチングやパート分け授業で対応しきめ細かな学習指導がされている。意欲的に学びに取り組める環境づくりの工夫を期待しています。 ・学習しようという気持ちにさせてあげる。 ・大目標も大切だが、小目標の達成体験の積み重ねによる授業の進め方はよいと思いました。 ・理解度を高めるため、生徒との対話や話しやすい環境づくりにさらに力を入れてもらえればと感じた。
4	・授業以外の活動を通じて、コミュニケーションの向上などが図られていることがうかがえた。 ・行事や体験を通して人間関係の構築を図っている。 ・SNSによる情報が多く、とくに対人関係に苦手意識を持つ人が多いのではないかとと思うので、広くいろいろな仕事の方や違った考え方の人と会い、話すことはよいことだと思う。 ・様々な取り組みで成果が出ていると思います。今後、更なる発展を期待しています。
4	・先生方が一丸となって生徒や保護者に寄り添っている様子が見える。 ・様々な特性を抱える生徒に対し、特性を乗り越え前向きに社会で活躍できる力をつけてほしいと思います。 ・働きながら学ぶことは素晴らしい。長く続けてほしい。 ・コミュニケーション力の強化が求められる。進路については、本人の「気になる」「好き」など目標を持ち挑戦してほしいものです。
3	・学校にいけないう中学生に「こんな学びの場もあるよ」という情報を積極的に発信してほしいです。 ・発信方法が多様化への対応は大変だと思います。 ・ホームページも常に新しく更新され充実している。 ・生徒保護者からの評価はおおむね良好なので、引き続きタイムリーな情報発信をしていただければと思う。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

様式1 令和8年度 山梨県立山梨高等学校定時制評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針 校訓「至誠無息」をあらゆる生活の中での心得として、常に目標や理想を高く掲げ、真摯に生きる生徒の育成

山梨県立山梨高等学校校長 藤巻 理恵

本年度の重点目標	1 基礎的・基本的学力の定着を図り、自ら学ぶ意欲を持つ生徒の育成
	2 自他を敬愛する豊かな心と、協働して物事に対応できる社会性を持つ生徒の育成
	3 学業と仕事を両立させることのできる、心身ともにたくましい生徒の育成
	4 地域や勤務先、保護者に信頼される学校づくり

達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	B 概ね達成できた。(6割以上)
	C 不十分である。(4割以上)
	D 達成できなかった。(4割以下)

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自 己 評 価				年度末評価		
本年度の重点目標				自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標			
1	学習意欲を高め、学習習慣の確立につながる授業改善の推進	①ICTの利点を生かすことで予習・復習を日常的に習慣化し、理解を促す授業の展開	生徒の学習課題提出状況 生徒アンケート			
		②授業改善につなげるための教員の研修機会の充実と、適切な学習評価の実践	授業アンケート 定期試験・教員研修			
		③個別最適な少人数授業や、チームティーチングの成果の検証	授業アンケート 生徒アンケート			
2	自他を敬愛する豊かな心を育む多様な体験活動の推進	①多様なコミュニケーション力や自己肯定感を育むための生徒会行事等の企画運営	生徒アンケート 教員アンケート			
		②いじめアンケートの定期的な実施と、いじめ根絶に対する、日ごろからの細やかな観察と指導	いじめアンケート			
		③教員の働き方改革につながる、地域連携と外部人材の効果的な活用	教員アンケート 外部人材活用実績			
3	基本的な生活習慣の確立と、自己の在り方生き方を追究したキャリア観の育成	①学業と仕事の両立に向けた就業把握と、遅刻・欠席等への積極的かつ伴走的な指導	三者懇談 生徒アンケート			
		②進路実現に向けた進路講話や個人面談、各種説明会など、進路希望に沿った柔軟な情報提供	保護者アンケート 進路情報の提供			
		③卒業時を見越した、進学・就職希望者に対する作文・面接、自己表現指導の実施	作文・面接指導の実績 生徒・保護者アンケート			
4	ホームページや学校通信等による積極的な情報提供	①HPやBLENDなどのICTを活用した、生徒の活動の様子や記録を紹介する情報発信	生徒・保護者アンケート			
		②保護者との連絡を効果的にし、公開授業や公開行事等の案内など、安心してわかりやすい学校生活の共有	保護者アンケート			

学校関係者評価	
実施日(令和9年2月 日)	
評価	意見・要望等

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
 (2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

山梨高校 いじめ防止基本方針

1. はじめに

平成25年9月に制定されたいじめ防止対策推進法をもとに、山梨県内の高校においても各校でいじめ防止基本方針を定めることになりました。この基本方針をもとに各学校は**いじめを未然に防ぎ**、生徒一人一人が安全・安心に学校生活を送ることができるよう取り組んでいます。保護者の皆様もこの趣旨をよく理解していただき、御家庭でのお子様への指導をよろしくお願い申し上げます。

2. 基本的考え方

いじめは、人として決して許されない行為であるという基本的姿勢をもとにします。また、いじめはどの生徒にも、どの学校にも起こりうることから、**学校・家庭・地域が一体となって、継続して、未然防止・早期発見・早期対応に取り組んでいきたい**と考えています。

3. 学校での体制

いじめ問題への取り組みに当たっては、校長のリーダーシップのもとに「**いじめを根絶する**」という強い意志を持ち、学校で組織的な取り組みを行います。取り組みの内容としては、**早期発見・早期対応**はもちろん、いじめを生まない土壌を形成するための「予防的」「開発的な」取り組みを展開します。そのために「**いじめ対策委員会**」や「**拡大いじめ対策委員会**」を設け取り組むこととなります。

【いじめ防止のための学校の体制】

○ いじめ対策委員会の実施

年3回実施する「**いじめアンケート調査**」の後、その結果を踏まえていじめ問題への対応について検証します。

○ 拡大いじめ対策委員会の実施

学校運営協議会にあわせて開催し、いじめ問題を含め、生徒の生活への対応について意見・助言を求めます。

4. いじめ防止指導計画

基本方針に沿って、以下のとおり実施します。

事業計画	
4月	年間計画の確認、調査書・個人調査票（中学校より）等による生徒状況の把握、教育相談窓口等の生徒・保護者への周知、HR・学年づくり、個人面談等 入学式(1年生保護者)・PTA総会(2・3年生保護者)での「 いじめ防止基本方針 」のいじめ対策に関わる取り組み。
5月	第1回「 いじめアンケート調査 」実施 第1回 いじめ対策委員会 開催（第1回 拡大いじめ対策委員会 開催）
6月	いじめ対策に関わる取り組み(職員) いじめ対策に関わる取り組み(HR)
10月	第2回「 いじめアンケート調査 」実施 第2回 いじめ対策委員会 開催（第2回 拡大いじめ対策委員会 開催）
1月	第3回「 いじめアンケート調査 」実施
2月	第3回 いじめ対策委員会 開催（第3回 拡大いじめ対策委員会 開催）

※ 三者懇談・二者懇談の際には、必ず生活の様子を確認し、**いじめの早期発見**に努める。

5. いじめの態様

いじめ防止対策推進法第2条による「いじめ」の定義は、生徒等に対して、当該生徒等が在籍する学校に在籍している当該生徒等と一定の人的関係にある他の生徒等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む）であって、当該行為の対象となった生徒等が心身の苦痛を感じているものをいいます。

いじめの具体的な態様

●いじめは大人の目に付きにくい時間や場所を選んで行われています。

- ①無視やメールなど客観的に状況を把握しにくい形態で行われています。
- ②遊びやふざけあいのような形態、被害者なのに加害者と仲の良い仲間の一員のような形態、部活動の練習のふりをして行われている形態があります。《カモフラージュ》

●いじめられている本人からの訴えは少ないです。

いじめられている生徒には、①親に心配をかけたくない ②いじめられる自分はダメな人間 ③訴えても大人は信用できない ④訴えたらその仕返しが怖い などといった心理が働くものです。

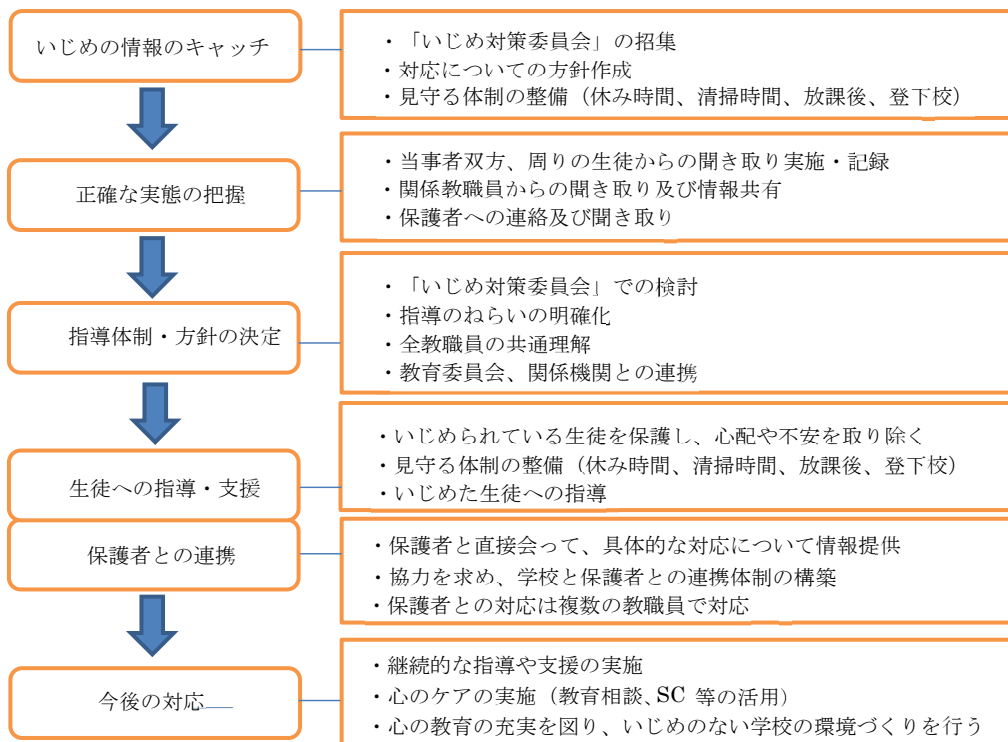
●ネット上でいじめにあっている兆候は学校ではほとんど見えません。家庭で「スマホを見なくなった」「メール着信があっても出ようとしない」などの兆候があれば、いじめにあっている可能性があります。

6. 早期対応

○いじめの早期発見

いじめの早期発見は、いじめへの迅速な対処の前提であり、全ての大人が連携し、生徒のささいな変化に気付く力を高める必要があります。いじめは、大人が気付きにくく判断しにくい形で行われることを認識し、ささいな兆候であっても、いじめではないかとの疑いを持って、早い段階からの確に関わりを持ち、いじめを隠したり軽視したりすることなく積極的にいじめを認知することが必要です。さらに、いじめの早期発見のため、定期的なアンケート調査や教育相談の実施、電話相談窓口の周知等により、生徒がいじめを訴えやすい体制を整えるとともに、地域、家庭と連携して児童生徒を見守ることが必要です。

○いじめへの対処



(5) ①本校の現状 【全日制】

1. 教務関係

(1) 高校入学者選抜(高校入試) 状況 (過去5年間)

年 度	前期募集		後期募集		再募集		合 計		定員
	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者	
令和 8 年度	4 8	4 1	1 0 2	9 6	0	0	1 5 0	1 3 7	1 3 7
令和 7 年度	4 3	4 1	1 0 7	9 6	0	0	1 5 0	1 3 7	1 3 7
令和 6 年度	3 7	3 7	1 0 5	1 0 5	0	0	1 4 2	1 4 2	1 4 2
令和 5 年度	4 0	4 0	1 1 3	1 0 2	0	0	1 5 3	1 4 2	1 4 2
令和 4 年度	4 4	4 4	1 0 2	1 0 1	2	2	1 4 8	1 4 7	1 5 0

○令和 8 年度 前期入試の倍率は 1.17 (昨年 1.05)、後期入試の倍率は 1.06 (昨年 1.11)

○山梨市・甲州市・笛吹市からの入学者数が全体の約 83 パーセント (114 名) を占める。

R8 高校入試 志願してほしい生徒像

- 1 本校の教育方針を理解し、本校への志望理由が明確である生徒
- 2 基本的な生活習慣を確立し、学業と部活動及びボランティア活動に積極的に取り組む意欲のある生徒
- 3 主体的に社会参画し、地域に貢献していこうとする強い意志を持っている生徒

(2) 各学年クラス状況

英理総合コースのほか、生徒の進路希望や能力・適性に応じたコースを設置し、それぞれより効果的な教育課程を編成している。

英理総合コース：32 単位 / 普通コース：30 単位

1 学年	2 学年	3 学年
英理総合コース(1) 普通コース(3)	英理総合コース(1) 普通コース(3)	英理総合コース(1) 普通コース(3)

表中の()内はクラス数

(3) 学習指導要領

学習指導要領では学校と社会との連携が示されており、よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという理念を学校と社会とが共有し、社会との連携および協働によりその実現を図っていくという、社会に開かれた教育課程の実現が重要となっている。そのため本校では、一昨年度から、近隣の小学校との交流活動を企画・実施している。今年度もその活動を継続するとともに、さらなる充実のために他の小学校との活動への拡大も検討している。

観点別評価については、一昨年度から全学年での実施となっている。観点別評価に関する校内規程についての見直しも実施してきたが、今後もその運用についての検証は継続し、生徒の学習改善と教員の指導改善につながる評価の実現に向け、試行錯誤を続けている状況である。

(4) 1人1台パソコン導入 (BYOD)

BYOD (生徒1人1台パソコン) についても、一昨年度から全生徒が自分のパソコンを所持することとなった。教員も ICT 機器を活用した授業実践を進めている。以前と比べると教員の ICT 機器を活用するスキルも少しずつ上がっている。定期的に派遣される ICT 支援員に相談し指導していただくことで、教員は更なるスキルアップにつなげている。校内のネット環境には課題があったが、徐々に改善してきている。

2. 進路関係

(1) 進路決定状況 (過去5年間)

年 度	大 学		短 大		専門学校	就 職	卒業生 総 数
	国公立	私 立	国公立	私 立			
令和7年度	14	52	3	11	41	10	135
令和6年度	19	52	2	13	45	7	139
令和5年度	13	55	5	10	38	8	129
令和4年度	11	59	6	15	46	6	144
令和3年度	19	66	4	14	49	10	164

(2) 令和7年度合格状況

令和8年度入試 合格状況一覧 (令和7年度卒業生)

国公立大学 (14)					専 門 学 校 (43)				
	推薦 (指)	推薦 (公)	総合型 選抜	一般		推薦 (指)	推薦 (公)	総合型 選抜	一般
山梨大学(教育)		1			甲府看護専門学校	2			1
〃(工)		1			帝京山梨看護専門学校	4			
山梨県立大学(国際政策)		1			富士吉田市立看護専門学校				1
〃(人間福祉)		1		1	山梨県立産業技術短期大学校		1		2
〃(看護)		1		1	甲府市立甲府商科専門学校	1			1
都留文科大学(教養)		2			大原医療保育スポーツ専門学校甲府校				1
〃(文)		1	2		大原ビジネス公務員専門学校甲府校				3
公立諏訪東京理科大学		2			専門学校サンテックカレッジ		3		
私 立 大 学 (67)					専 門 学 校 (43)				
	推薦 (指)	推薦 (公)	総合型 選抜	一般		推薦 (指)	推薦 (公)	総合型 選抜	一般
健康科学大学	6		1	6	帝京福祉専門学校				1
帝京科学大学	1			2	山梨県歯科衛生専門学校	2	1		
山梨英和大学	2			2	山梨県美容専門学校		1		1
山梨学院大学	5	1	2	3	青山製図専門学校	1			
駿河台大学				1	神田外語学院				1
日本医療科学大学				1	国際文化理容美容専門学校国分寺校				2
亜細亜大学	1				東京電子専門学校				2
桜美林大学			1		東京ビューティ&ブライダル専門学校				1
杏林大学				1	日本工学院八王子専門学校	2			1
国土館大学		1			日本電子専門学校		1		1
駒沢女子大学	1				マリールイズ美容専門学校	1			1
実践女子大学	2				早稲田美容専門学校				1
専修大学	1				長野救命医療専門学校	1			
創価大学	1				総合学園ヒューマンアカデミー				1
拓殖大学	2				就 職 (10)				
東京経済大学	2				東山製行政事務組合(消防職)				1
東京工科大学	2				(株)石和名湯館 糸柳				1
東京都市大学	1				(株)うぶや				1
文化学園大学	1				(株)石和観光ホテル鹿山				1
法政大学	1				公共社団法人 山梨勤労者医療協会				1
明星大学			1	3	セコムジャスティック山梨(株)				1
目白大学			1		(有)ガーデン甲斐				1
ヤマザキ動物看護大学	1				(株)蒲郡オレンジパーク				1
神奈川工科大学	1		1	2	(株)木下の介護				1
神奈川大学				1	社会福祉法人 さくら福祉会 岩崎保育園				1
関東学院大学	1	1							
松本看護大学				1					
松本大学				1					
京都外国語大学				1					
短 期 大 学 (14)					専 門 学 校 (43)				
	推薦 (指)	推薦 (公)	総合型 選抜	一般		推薦 (指)	推薦 (公)	総合型 選抜	一般
大月短期大学	1			2					
帝京学園短期大学	1								
山梨学院短期大学	4	2	3	1					

- いわゆる「年内入試」である学校推薦型選抜（指定校制・公募制）や総合型選抜による受験者は、全国的に増加傾向にあり、本校においても同様の傾向が顕著に見られた。
- 進路については引き続き県内志向が見られる一方、指定校制による学校推薦型選抜を活用した県外進学者も増加した。特に私立大学においては、県内よりも県外大学への合格者・進学者が上回った。
- 国公立大学の合格者 14 名のうち、一般選抜による合格者は 2 名であり、いずれも山梨県立大学への進学であった。
- 進学分野としては、例年同様に医療・看護・福祉・保育系への進学者が多い傾向にある。
- 就職については、ここ数年は公務員・企業を合わせて一桁台で推移していたが、令和 7 年度卒業生においては 10 名と、やや増加が見られた。

(3) 「総合的な探究の時間」・キャリア教育

ア 「総合的な探究の時間」への取り組み

自分自身の好奇心を探り進路を探究する「探Qスタディ (TS)」として実施している。1 年次は私たちの暮らす地域の課題を考える地域探究、2 年次は修学旅行を見据えた九州探究、そして 3 年次は各自の進路に合わせたゼミ別の探究活動を主軸として展開している。

イ キャリア教育の推進

平成 17 年度から始まったインターンシップは、平成 18 年度以降 2 年生全員を対象として展開し、県内企業 80 社程度に依頼して生徒の希望と企業の状況を考慮しながら、夏期休業中に 2 日間程度の就業体験を実施している。事前事後の指導は、「総合的な探究の時間」で進路学習として行っている。

生徒指導関係

自転車安全利用推進校



4月15日（水）に令和8年度自転車安全利用推進校の指定を受けました。日下部警察署の大会議室で日下部警察署長より生徒会長の野沢匠杜さんが自転車安全利用推進リーダーに委嘱され交通安全宣言を行いました。また、日下部安全運転管理者協議会から反射板の贈呈を受け4月16日（木）朝登校時に正門と北門で生徒支援部の職員により生徒の自転車に装着し安全運転を促しました。

マナーアップ週間



4月と5月に「登校時マナーアップ週間」を行い、しなやかな心の育成を目的とした朝のあいさつ運動を部活動の生徒と生徒会本部役員を中心に行いました。また、生活防災委員による駐輪指導を行いました。この時間帯は駅から歩いてくる生徒や自転車、送迎の自動車でも混雑します。お互いに交通ルールやマナーを守り、事故の無いようにしなければなりません。まずは急ぐことが無いように時間に余裕を持って行動するよう呼びかけています。

自転車安全運転啓蒙活動



5月20日（水）8時から日下部署交通課・地域交通安全活動推進委員・生徒会役員で16歳以上が対象の交通反則通告制度の周知徹底を図るための自転車通学者にビラ配りと反射板を配付し交通安全を促しました。



自転車・バイク安全点検



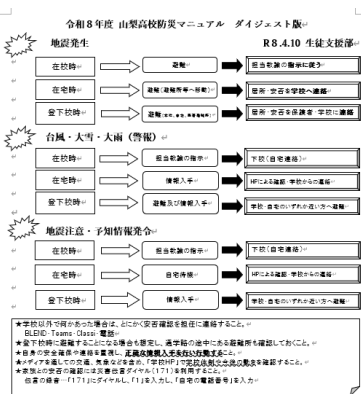
5月18日（月）に自転車販売店の地区支部の方々により「自転車・バイク安全点検」が実施されました。1台ずつブレーキや車輪、ライト、ベルなどを点検し、整備が必要な自転車、バイクには黄色の安全点検カードが付けられました。不備の箇所を整備して安全に乗る指導をしています。

情報マナー教室

4月22日（水）に株式会社エージェンツ所属で昨年度まで本校にICT支援員として勤務していた下地 正恵さんを講師に招き、インターネット使用時のメディアリテラシー（スマホ等の道具や情報・サービスを使いこなす力）の不足から、様々なトラブルを引き起こす、被害に遭うという実態が数多くあることを理解させ、危険性を認識するだけでなく、意識を高めて使いこなせるような行動変容に繋げる機会としました。



防災教育



4月10日（金）各HRで「避難経路」を使用して、主にHR教室からの避難方法及び経路の確認、「山梨高校防災マニュアルダイジェスト版」を配布し、災害発生時の対応についての確認、帰宅困難時の避難場所、地震災害時緊急連絡方法について確認等を実施しました。

生徒会関係

ろう学校・山梨高校交流会

山梨高校とろう学校は同じ関東地域で近い距離にあります。6月2日（火）に両校の交流会が行われました。高等部の1名の生徒が本校を訪れ生徒会役員15名とお互いに自己紹介をした後、ポッチャ等のゲームで盛り上がり、交流が深まりました。最後に校内を案内し部活動の見学をしました。今後も様々な面で交流を深めていきたいと思います。



万葉うたまつりとホタル観賞会参加

6月13日(土)に万力公園で「万葉うたまつりとホタル観賞会」が開催され、ダンス同好会がステージ発表を行いました。ダンス同好会は24人のメンバーがグループに分かれて連続したダンスを途切れることなく披露し、会場を盛り上げました。天気に恵まれ、子どもから大人まで多くの方が来てくださり、声援をいただきました。



関東大会出場

山梨県高等学校総合体育大会が5月13日(水)～15日(金)に開催され、男子ハンドボール部が3位に入賞し、6月5日(金)から埼玉県で開催された関東大会に2年連続で出場しました。また、3年女子の大村ゆずさんが砲丸投げ(2位)、円盤投げ(6位)で入賞し、6月11日(木)から茨城県で開催された関東大会に出場しました。5月29日(金)には壮行会を行い、全校生徒の校歌と応援で健闘を祈りました。



広報関係

梨窓 Now 発刊

6月1日(月) 梨窓 Now vol.28



ホームページで山梨高校の「今」を発信中



本校の現状【定時制】

1 高校入学者選抜状況

年 度	定時制募集		再募集		合計	
	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者
令和8年度	8	8	1	1	9	9
令和7年度	9	9	1	1	10	10
令和6年度	8	8	2	2	10	10
令和5年度	1	1	0	0	1	3
令和4年度	4	2	2	1	6	5

2 本校生徒の進路状況

(1) 進路決定状況

年 度	就 職	専門学校	短期大学	大 学		その他 アルバイト等
令和7年度	0	1	0	0		0
令和6年度	2	1	0	0		0
令和5年度	5	0	0	0		1
令和4年度	2	1	0	0		1
令和3年度	2	1	0	0		0

(2) 進路先

	就 職	進 学	その他 (アルバイト等)
令和7年度	なし	サンテクノカレッジ	
令和6年度	奥藤 ロピア	サンテクノカレッジ	
令和5年度	(株)エノモト 塩山石油 浅川熱処理(株) ローソン塩山熊野店 (株)ダークホース東京支店		
令和4年度	富士精密(株)山梨工場 ワタキューセイモア山梨営業所	甲府看護専門学校	
令和3年度	信玄食品 日本連合警備	山梨県美容専門学校	

3 本校の主な教育活動等について

(1) 各年次の状況

1年次9名、2年次9名、3年次9名、4年次1名と、3年続けて多数の入学者があった。引き続き少人数による授業を展開し、個に応じた内容や方法となるよう工夫している。また、全生徒における活動により、集団で協働する場面も取り入れている。

(2) 「総合的な探究の時間」・キャリア教育

ア 「総合的な探究の時間」への取り組み

生徒自ら課題を立て、情報収集、整理・分析、まとめ・表現ができるようにするとともに、主体的・協働的に、探究に取り組む姿勢を身に付けることを目標に取り組んでいる。

イ キャリア教育の推進

1年次は【自己理解】、2年次は【社会参画】、3年次は【進路選択】、4年次は【進路実現】を重点目標に、外部人材も活用しながら、キャリア形成を図っている。

(3) ICT 機器教室配置状況

機器名	説明	1	2	3	4	計
大型液晶TV TOSHIBA 65M530X	65インチ キャスター付	1	1			2
大型液晶TV TOSHIBA 65M550X	65インチ キャスター付			1	1	2
BDプレイヤー Panasonic DMP-BD90S	ブルーレイディスクプレイヤー			1	1	2
BDプレイヤー TOSHIBA DBP-S500	ブルーレイディスクプレイヤー	1	1			2
書画カメラ PRINCETON PDP-4K13	資料提示装置 (実体実物投影機)			1		1
生徒用タブレットPC NEC PC-VEE11R5A63G9	生徒用学習端末 (Windows)			7		7
Wi-Fi アクセスポイント Cisco Catalyst	教員と生徒のWi-Fi アクセスポイント	1			1	2

(参考様式第2号)

令和8年度 職場環境づくりマネジメントプラン

学 校 名	山梨県立山梨高等学校
校 長 氏 名	藤巻 理恵

マネジメント1：業務管理

- 【着眼点】
- ・組織の「方針」「イメージ」を確認し、教職員に伝え、共有する
 - ・スケジュール管理 / 業務の優先順位を明確にする
 - ・アウトプットのイメージを明確にする など

【取組方針】

学校の教育目標に基づき、各分掌・学年・事務室において立案した目標・目指す姿・具体的な取組について進捗管理を行い、PDCAサイクルを確立して業務改善を図る。

マネジメント2：業務効率化の徹底

- 【着眼点】
- ・不必要な作業を見直し、必要な作業時間を確保する
 - ・業務を適切に配分 / 状況に応じて柔軟に配分を見直すなど
 - ・多忙化解消にむけた働き方改革の取り組み

【取組方針】

ICT機器を活用した業務改善に取り組む。Teams、BLEND等を利用し、業務の効率化を図る。また、昨年度、外部人材の活用、組織的な業務の見直し等を行っており、その状況を確認しながら多忙化解消にむけた改善を推進していく。

マネジメント3：働きやすい職場環境づくり

- 【着眼点】
- ・職員の状況(育児や介護)に留意し必要な支援をする
 - ・体調管理にも留意(特にメンタル) / ハラスメントを許さない環境
 - ・コミュニケーション(相談)しやすい雰囲気づくり など

【取組方針】

教職員との懇談や声かけ等を積極的に行いながら日常的に職員の状況把握に努める。また、相談しやすい雰囲気づくりを進める。必要に応じ、相談機関・専門機関へつなぐことも含めた支援・配慮を行う。

マネジメント4：自ら積極的に動き業務と対応すべき課題に責任を持つ

- 【着眼点】
- ・教育委員会との調整や、重大事案等の方針決定を責任を持って行う など

【取組方針】

教育委員会や地域・PTA(PETA)と調整を行い、役割分担を明確にするとともに本校の教育活動に理解と協力を得るよう働きかける。

マネジメント5：部下の成長支援

- 【着眼点】
- ・適切なフォローと計画的な育成
 - ・適切な目標設定、公正な評価とフィードバック など

【取組方針】

「やまなし教員等育成指標」「人材育成と人事管理に関する基本方針」に基づき、各教職員がキャリアアップを図るよう研修計画も含めて指導・助言を行う。適切な目標設定のもとで教職員がモチベーションを高め、仕事にやりがいを感じ、人間としても成長することを支援する。